

スタッフのためのフリー ペーパーマガジン

まめ

再創刊です！「まめ」は当法人ではたらくスタッフのためのささやかな情報誌として2011年11月に創刊されました。その当時のねがいはたったひとつでした。私たちがつながること。

例えていうなら、ここではたらく私たちは一粒ひとつぶ大事なお豆さん。そのお豆さんもひとつのさやの中で並んでいて、ひとつとして同じものではなくても、ただ同じさやにはいつていることにつながっている。

そんなささやかなことが実感できる情報誌をつくりたい。

わたしたちは介助をとおして、しょうがいをもつひとの地域生活を支える一員です。しょうがいをもつひとが差別されたり区別されたりすることはちょっとずつなくなってきました。地域生活をするしょうがいしゃがいてそれを支える一員がいて実現してきたのです。

これからもわたしたちがともに支え合い、寄り添いあって、一人ひとり光かがやく存在としてつながっていったらいいな、と思います。

文：編集長

ふりかえればイシュー

今回は当法人について考えます。

■NPO法人えがくってなに？

NPO法人えがくは介助サービスを中心とする事業を法人化した事業体です。わたしたちは複数の事業をおこなっており、それは運動体の部分と事業体の部分とに分けることができます。

■なぜ運動体の部分と事業体の部分があるの？

運動体がめざすのは「他のものとひとしい生活ができる社会にすることです。行きたいところに行く・住みたいところですむ・学ぶときにまなび・働くときにはたらく。すべての人に保障されているであろう権利をしょうがいをもつ人の手に取り戻すことはまいにちの人間らしい生活に直結するものです。すなわち事業体がめざすのは「まいにちの人間らしい生活・暮らし」を保障すること。そのために介助サービスはあります。

■NPO法人えがくが法人化された事業体として介助サービスをおこなうことがわかりました。運動体の部分はどう進めていますか？

運動体としておこなう事業はピア・カウンセリング・自立生活プログラムなどがあり各種講座として提供されます。これらの講座はしょうがいをもつひとがしょうがいをもつひとに提供するものですから、しょうがいをもつひとが運営主体として活動する自立生活センターがおこないます。私たちの各種事業をおこなう母体となるのが自立生活センターアークスペクトラムなのでそこに所属するスタッフが事業を提供します。

サイドバイサイド

まいのーと

ハタラク人たちのよこがお。



編集長：Nさんは何年目
になったの？

のまの：八年になりましたね
編集長：もうずいぶんになるね
のまの：ええ

編集長：この仕事してみてあなたが思ったこと聞いてみたいね
のまの：そうですね。はやい段階で介助いがいの仕事を任されたことで
現場のみの視点ではなく（事業）全体を見る目が養えたと思います。 編
集長：あなたと同じように若い人が資格を持っているからハタラク期間
が短くても責任者に抜擢されたりしてるね。

のまの：そうですね。はやくから経験が積めて年功序列にならないとい
う利点もありますが、経験や自信がともなわないことから過労やストレ
スに悩むこともありますね。

編集長：介助するときってやはり身体面が精神面に影響することってあ
るのかな？

のまの：とても大きいと思います。身体的な疲れがちょっとした受け答
えにも影響をあたえますし、ぎゃくに精神面の余裕がないと質の高いサ
ービスはできないですね。

編集長：私たちがあらためておもう良いサービスはなんだろうね？

のまの：サービスを受ける方の気持ちを日々保障する質の高さと、職員
の働き方の変化をともに考える必要もあります。ともに人生を長期的に
ささえる強固な体制、その両面を備えることでしょうか。

N・Fくん
B型32歳
サービス提供責任者

私たちからのお知らせ

月にいちどのごえんの日。それはそれは一人ひとりがよりあるがまま
の自分をあらわせるとっておきの時間。とくべつの場所で、とくべつ
の思いを込めて、おいしい食事に舌づつみを。

ご縁の会

する日：9月29日（木よう）

じかん：18時～20時すぎ

ところ：梅小路コラボ（u-collabo.com）

おかね：3200縁



ときたま更新されてるかも…

Facebook:@arcsp.org

Twitter:@arcsp_org

YouTube:youtube.com/arcspmovie